取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

DX ANTENNA
DX ANTENNA CO., LTD.

CS/BS-IF・UHF・VHFブースタ

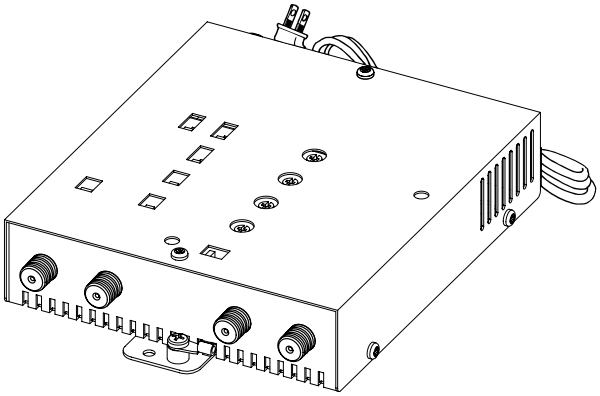
電源内蔵形　屋内用　地上デジタル放送対応
2.6GHz対応

CM33L1

CS/BS-IF・UHFブースタ

電源内蔵形　屋内用　地上デジタル放送対応
2.6GHz対応　VHFパス

CU33L1



表紙イラストはCM33L1です

製品の特長

- **戸建・小規模集合住宅の共聴用設備に最適**
  地上デジタル放送、BS・110度CS放送に対応した戸建・小規模集合住宅用増幅器(※1)として最適です。(CS/BS-IFは2610MHz対応)
- **省エネ・省施工設計**
  消費電力を**27%(CU33L1は33%)**(※2)**低減した省エネ設計**です。(2005年当社機種比較)　また、地球環境の保全に寄与する自社基準を満たした「**ECOマーク**」表示商品で、RoHS指令の環境負荷物質の規制に対応しています。なお、取り付けは付属の木ネジ2本でスピーディーに行なえます。
- **アナログ放送終了後新機能・VHF(Lo)カット、VHF(Hi)カットスイッチで消費電力を低減**(CU33L1にはありません)
  地上アナログ放送終了後に不要な回路を停止することで、通常使用時から27%(※2)の消費電力を低減し、きめ細かな省エネを実現することができます。
- **低雑音、高出力設計**
  UHF増幅部にはローノイズFETを採用し雑音指数2.5dB以下を、CS/BS-IF増幅部にはローノイズトランジスタを採用し雑音指数6dB以下を実現しています。また、UHF帯は103dBμVの高出力を、CS/BS-IFは36波で100dBμVの高出力伝送ができます。
- **安全・高信頼性設計**
  高周波増幅回路・電源回路ともに誘導雷避雷回路内蔵で、±15kV(1.2/50μs)のサージ電圧に対して優れた保護性能を発揮します。また、電源プラグはトラッキング対策品を使用した安全設計です。
- **柔軟な調整が可能**
  すべての帯域に入力ATTと利得調整ボリュームを内蔵していますので様々なシステムに対応できます。
- **出力モニタ端子搭載で調整が簡単**
  配線後も、放送を中断することなく最適なレベルが確認できます。
- **2電源方式によりコンセントがない場所でも使用可能**
  コンセントのない場所でも、出力端子にDC15Vを重畳(推奨電源:PS-1501)する方法で使用できます。

(※1)ただし、CU33L1はVHF信号が通過します。(増幅されません)　(※2)コンバータ電源非送出時

安全上のご注意

	△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	◇記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警告

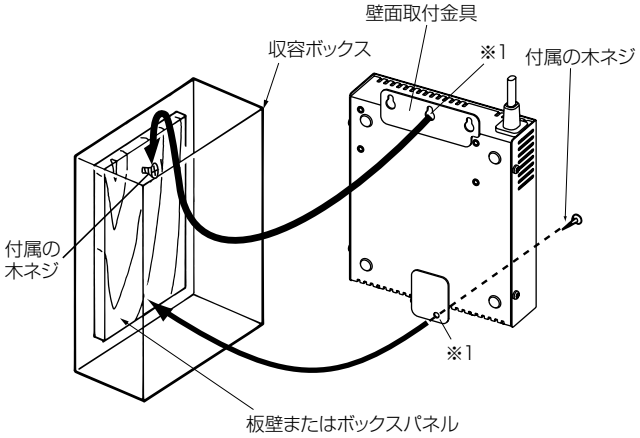
この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- テレビ受信関連工事には技術と経験が必要ですので、お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。
- 表示された電源電圧（AC100V 50/60HzまたはDC15V）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この製品は屋内専用です。この製品を屋外に設置したり、風呂場や洗い場など水がかかる場所やほこりの多い場所、水などの入った容器の近くなどに設置しないでください。
  火災・感電の原因となります。
- 万一内部に水などが入った場合は、まずこの製品の電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは工事店にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
- この製品に接続する同軸ケーブルには、テレビ電波以外に電流が流れることがあります。電源コードや同軸ケーブルなどを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。火災・感電の原因となります。
  電源コード、同軸ケーブルなどが傷んだときは（心線の露出、断線など）お買い上げの販売店もしくは工事店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電などの原因となります。
- この製品を直射日光の当たる場所や調理台、加湿器のそばなど高温になる場所、油煙や湯気が当たるような場所に設置しないでください。火災や破損の原因となります。
- 強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所に設置しないでください。
  落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
- 高所などに設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。
  落ちたり、すべったりしてけがの原因となります。
- この製品の通風孔をふさいだり、通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
- この製品のケースを開けたり、分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となります。また、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがする場合は、すぐにこの製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。煙や臭いがなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。
- 取り付けネジや接栓の締め付け力（トルク）に指定がある場合は、その力（トルク）で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。
- この製品の本体を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6㎜以上の軟銅線で接地してください。
  接地しないと避雷やシールドの効果がさがり、感電や故障の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、この製品には触れないでください。
  感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

お取扱いの前に　設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。

- この製品を屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容箱などに収容してください。
- 増幅器を落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。
- 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
- 使用時、増幅器に異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。
- この製品に接続する同軸ケーブルの心線径が0.8㎜より太い場合は、必ずコンタクトピン付き接栓をご使用ください。直接接続すると変形や接触不良などの故障の原因となります。
- 接続する同軸ケーブルの接栓取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
- 入出力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください（2N・mを超えるトルクでは締め付けないでください。2N・mを超えるトルクで締め付けると入出力端子が壊れることがあります）。
- この製品の正常な動作を確認するために、定期的な点検を実施してください。

取付方法



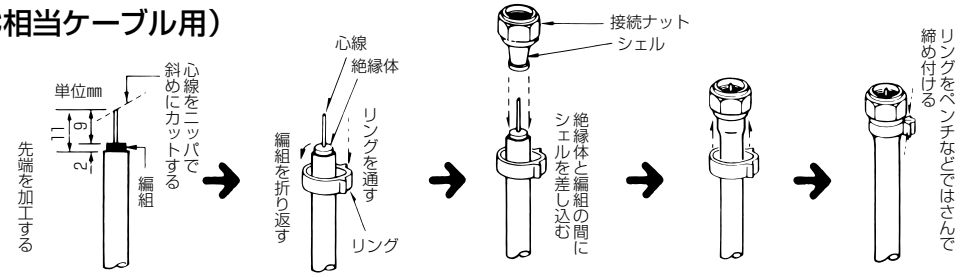
- 図のように板壁または収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ2本で取り付けます。はじめに増幅器の上側・中央の穴をあらかじめ取り付けたネジに掛けてください。次に残りの木ネジ1本で増幅器の下側を固定し、しっかりと取り付けてください。（※1の穴を使用します。）
- 収容ボックスは放熱を施した外形寸法600×800×250㎜以上のものを使用してください。
- **天井や熱のこもる場所への取り付けはしないでください。必ず入出力端子が下向きになるように増幅器本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。**

電源の供給

- 電源の供給は、必ず取付工事が終わって、機能アースが接地されていることを確認してから行なってください。電源の供給と同時にこの製品のパイロットランプが点灯します。
- この製品には電源スイッチがありません。電源コードのプラグをAC100Vコンセントに差し込むことにより、電源が供給されます。
- 重畳電源を利用する場合は、出力端子に別売の電源（PS-1501推奨）を接続してください。なお、別売の電源とこのブースタ間に接続する分配器などは、全て通電タイプを使用してください。
- 使用時に異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。

F-5接栓（付属品）への同軸ケーブルの接続方法

（5C相当ケーブル用）



接栓締付トルク　2N·m

- CS/BS-IF帯の電波を効率よく伝達するため、同軸ケーブルは高品質の5C-FVS、S-5C-FBなどのご使用をおすすめします。（この場合、必ず使用する同軸ケーブルに適した別売の接栓をご使用ください。）
- 同軸ケーブルの先端を加工する場合、心線·編組に傷をつけたり上記加工以外の加工をすると断線やショート、機器の破損の原因になりますのでご注意ください。また心線と編組は、絶対に接触しないようご注意ください。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
- 設置した後で抜けたりしないように、同軸ケーブルのリングはしっかりと締めてください。
- この製品へのF形接栓の接続は、接続ナットを2N·mのトルクで締め付けてください。（2N·mを超えるトルクでは締め付けないでください。）
- この製品に取り付ける同軸ケーブルの心線径が0.8mmより太い場合は、必ずコンタクトピン付き接栓をご使用ください。
- 接続する同軸ケーブルの接栓の取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。

各部の名称（CM33L1で説明しています。）

※①～⑪のスイッチ、ボリューム・端子の詳細は対応する番号の操作説明とブロックダイヤグラムをご覧ください。（①～⑤のスイッチ、ボリュームはCU33L1にはありません。）

電源コード（AC100V）

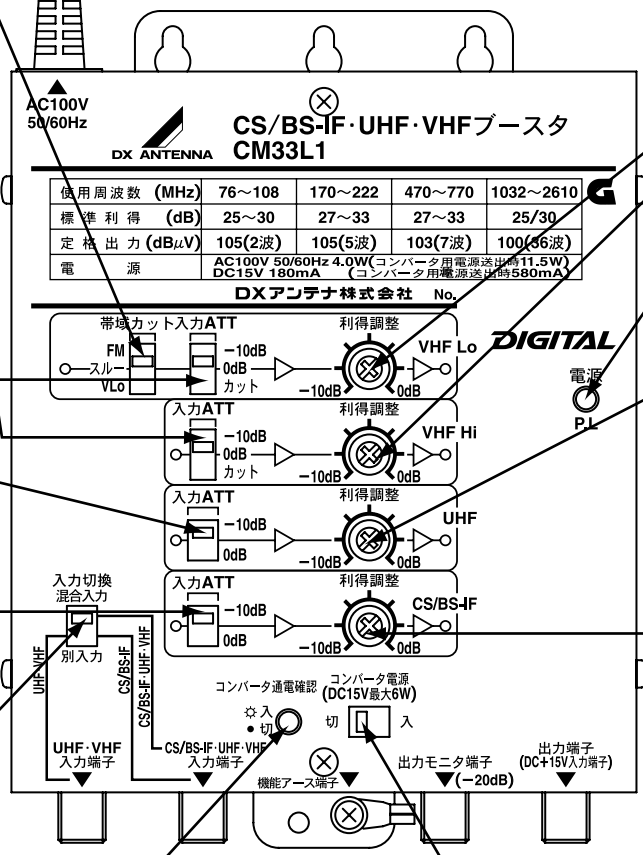
①VHF（Lo）
帯域カットスイッチ
（CU33L1にはありません）
FM混信や現在のアナログTV 1～3chを使用しない場合に操作します。（通常は「スルー」位置）

②VHF（Lo）
④VHF（Hi）
入力ATTスイッチ
（CU33L1にはありません）
−10dB／0dB／カットを選択できます。不要な電波をカットすることで消費電力の低減が可能です。

⑥UHF
入力ATTスイッチ
−10dB／0dBを選択できます。

⑧CS/BS-IF
入力ATTスイッチ
−10dB／0dBを選択できます。

⑩CS／BS-IF
入力切換スイッチ
UHF・VHF信号が別入力か、混合入力かを選択します。



③VHF（Lo）
⑤VHF（Hi）
利得調整ボリューム
（CU33L1にはありません）
通常は最大利得（0dB側）で使用することをおすすめします。（TVに対して過入力の場合、調整します。）

パイロットランプ

⑦UHF
利得調整ボリューム
通常は最大利得（0dB側）で使用することをおすすめします。（TVに対して過入力の場合、調整します。）

⑨CS／BS-IF
利得調整ボリューム
通常は最大利得（0dB側）で使用することをおすすめします。（TVに対して過入力の場合、調整します。）

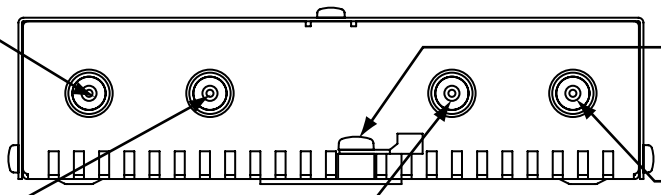
コンバータ通電確認ランプ

⑪CS／BS-IF
コンバータ電源スイッチ
「入」にするとDC15Vが供給され、確認ランプが点灯します。

UHF・VHF入力端子
入力切換スイッチ：別入力の場合

CS/BS-IF・UHF・VHF混合入力端子
入力切換スイッチ:混合入力の場合

CS/BS-IF入力端子
コンバータ用電源出力端子



出力モニタ端子
出力端子−20dBが出力されます。

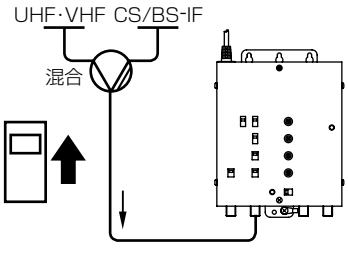
機能アース端子

出力端子
コンセントのない場所でも、DC+15V（PS-1501推奨）を重畳して電源を供給できます。

入力切換スイッチの操作 ⑩

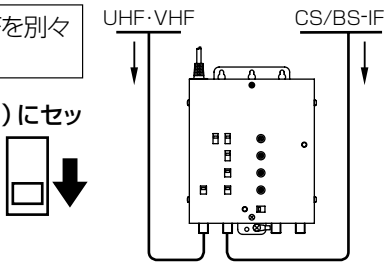
CS/BS-IFとUHF・VHFの混合入力でご使用の場合

スイッチは上側（混合入力）にセットしてください。



CS/BS-IFとUHF・VHFを別々の入力でご使用の場合

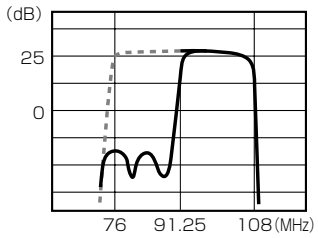
スイッチは下側（別入力）にセットしてください。



帯域カットスイッチの操作 ①

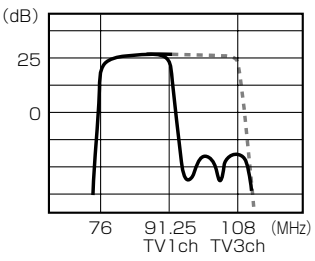
FMカットについて ① 〈CU33L1にはありません〉

- 地域によってFM放送の電波が強くテレビ画像に影響を及ぼす場合は、スイッチを上側（FMカット）にセットしてください。
- 出荷時は中央（スルー）にセットされています。



チャンネルカット（現行TV1～3ch）について ① 〈CU33L1にはありません〉

VHF放送を使用しない場合や、アナログ放送が終了後は、現行のアナログTV1～3chをカットすることで将来のチャンネル割当て時に発生する影響に柔軟に対応ができます。（FM放送は増幅されます。）

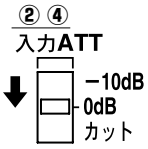


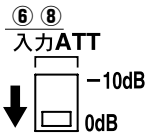
入力ATTスイッチの操作 ②④⑥⑧

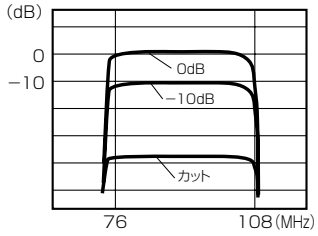
共通 ATTスイッチについて ②④⑥⑧ 〈②④はCU33L1にはありません〉

- 出荷時は過入力防止の為、−10dB側にセットされています。入力レベルが適正入力レベルの場合はスイッチを0dB側にセットしてください。（適正入力レベルは5ページを参照してください。）
- 出荷時設定でもなお、適正入力レベルを超える場合（入力オーバー）、別売のアッテネータ（減衰器）を入力端子に挿入し、適正入力レベルに合わせてご使用ください。

※コンバータに電源を供給する場合は、必ず通電仕様のアッテネータを使用してください。

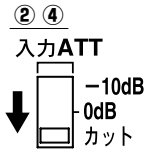






VHF（Lo）（HI）カットスイッチについて ②④ 〈CU33L1にはありません〉

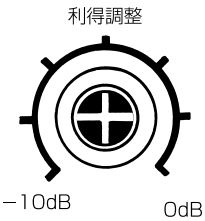
VHF放送を使用しない場合や、アナログ放送が終了後は、スイッチをカット側にすることで消費電力の低減ができます。



利得調整ボリュームの操作 ③⑤⑦⑨

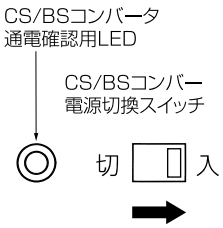
〈③⑤はCU33L1にはありません〉

- 利得調整ボリュームは反時計方向いっぱいに回しきった時、利得最小となります。出力モニタ端子にレベルチェッカ（電界強度測定器など）を接続し、このボリュームにより調整してください。
- 利得調整ボリュームは、調整用ドライバで軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。
- 出荷時は−10dB側にセットされています。
- 出力モニタ端子は、出力端子に対して、**20dB**低いレベル値を示します。

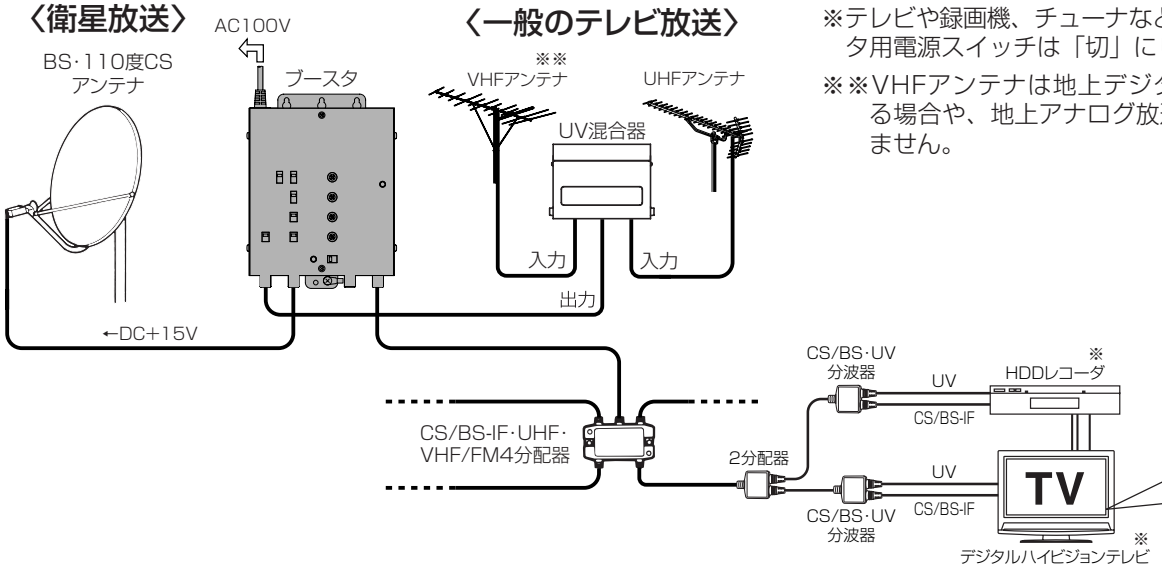


CS/BSコンバータ電源切換スイッチの操作 ⑪

- この製品からCS/BSコンバータ用電源（DC +15V最大6W）を供給する場合は、コンバータ電源切換スイッチを“入”にしてください。
- CS/BSコンバータ動作用の重畳電源を供給できる端子はCS/BS-IF入力端子（CS/BS-IF・UHF・VHF混合入力端子）のみです。
- 電源供給はCS/BSコンバータへのケーブル接続を確認した後に行なってください。
- 重畳ラインの機器は必ず電流通過形をご使用ください。
- CS/BSコンバータを重畳電流で動作させる目的以外の場合に通電しますと事故の原因となりますのでご注意ください。
- 入力端子側でショートしている場合、コンバータ通電確認用ランプが消え、増幅器が動作しなくなります。
  CS/BSコンバータ電流スイッチを“切”にして、入力端子側のショート箇所を取り除いてください。故障の原因となります。



使用例（CM33L1で説明しています。）



※テレビや録画機、チューナなどのCS/BSコンバータ用電源スイッチは「切」にしてください。

※※VHFアンテナは地上デジタル放送のみ受信する場合や、地上アナログ放送終了後は必要ありません。

本品を設置しても、デジタル放送受信機に表示される「アンテナレベル」や「受信レベル」の数値（指標）が変わらない場合や下がる場合がありますが、本品の不具合ではありません。

基本的な調整方法　（このブースタをはじめてご使用いただくときの基本手順を説明しています）

以下の説明は、弊社がおすすめする基本的な調整手順ですが、お客様の受信環境によってはここで説明する方法だけでは対応できない場合もございます。ご不明な点はご購入店、弊社営業所またはカスタマーセンターにお問合せください。

はじめに	このブースタを調整する前に、このブースタに接続する各アンテナの取扱説明書を参照して**アンテナの方向調整を済ませてください。**
調整に必要な機材、工具など	1. 調整用ドライバ（ボリュームを回したり、スイッチを切換えます） **ボリュームは強く回すと破損する恐れがあります。**本体を設置するときに使用した大形ドライバでは回さないでください。 2. レベルチェッカ 必ずレベルチェッカ等の信号レベルを確認できるものを使用してください。（簡易タイプでも構いません。）

調整スタート

ケーブルを接続する前に、必ずこのブースタを取り付ける場所で適正入力レベルをチェックしてください。

〈手順1〉適正入力レベルのチェック

レベルチェッカにアンテナからの信号を接続して、レベルチェッカの操作方法に従い、このブースタの適正入力レベルかどうか以下の数値をチェックしてください。
このとき、各放送で**最大レベルを示すチャンネルを見つけて**確認してください。

（注1）規格特性「定格出力レベル」の波数にて運用する場合の値です。

（※）CU33L1にはVHF帯の増幅機能はありません。（VHF信号はそのまま通過します。）

放　送	適正入力レベル（注1）
VHF（Lo）	：75dBμV以下（※）
VHF（Hi）	：72dBμV以下（※）
UHF（アナログ）	：70dBμV以下
UHF（デジタル）	：60dBμV以下（注2）
CS/BS-IF	：70dBμV以下

（注2）UHFのアナログ波を受信している場合はアナログ波にて調整してください。

NO

- **1～10dBまでのオーバー（過入力）**→このブースタの**入力ATTスイッチ②④⑥⑧を使用すると10dB減衰させて適正入力レベル以内にすることができますので、このまま〈手順2〉に進んでください。**
- **10dB以上オーバー（過入力）**→ オーバーしている放送の系統のラインに外付けアッテネータ（ATT）を挿入してレベルを減衰する必要があります。弊社DATシリーズをお買い求めください。詳しくは購入された販売店、または弊社営業所にご相談ください。

未対策

一旦終了します。
問題を解決してから手順2に進んでください。

過入力を解消

YES

〈手順2〉
定格出力を得るためにスイッチ／ボリュームの設定を変更します。

入力ATTスイッチ②④⑥⑧（出荷時は過入力防止のため−10dB側）
- 〈手順1〉で**YES**の場合→**「0dB」側に変更**してください。
- 〃　**NO**の場合→外付けアッテネータ（ATT）値に応じて適正入力レベル以下になるように、入力ATTスイッチを設定してください。

利得調整ボリューム③⑤⑦⑨（出荷時は過入力防止のため−10dB側）
- **4か所とも**時計回り方向いっぱい**（0dB側）**に回してください。

VHF（Lo）・帯域カットスイッチ
- 調整時はスルー位置のまま変更しません。（CU33L1にはありません）

次のページへ

参考　適正入力レベルの下限について

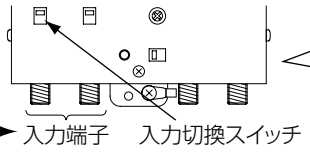
このブースタの場合、各放送の入力レベルが48dBμV程度ありますと、映像は確認できますが、十分なレベルとはいえません。受信環境に変化が生じても安定した映像をえるためには、適正入力レベルを守ってください。
なお、**48dBμV未満は入力不足です。**アンテナの方向が正確にご希望の局に向いていない場合や、お客様の受信環境では受信できない場合があります。

ここがポイント!
基本は、入力側で、このブースタの入力ATTスイッチや外付けアッテネータを使用して、**適正入力レベルに調整し、最大利得で運用してください。**

〈手順3〉このブースタに同軸ケーブルを接続します。

〈入力側ケーブルの接続〉
接続方法は2通りあります。

スイッチを選択したら、入力端子に同軸ケーブルを接続してください。



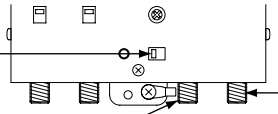
このブースタに接続する信号は、CS/BS-IFとUHF･VHFが
- **混合入力ですか?**
- **別入力ですか?**

詳細は3ページの「入力切換スイッチの操作⑩」をご覧の上、スイッチを選択してください。

「入力切換スイッチ⑩」設定完了、入力側ケーブル接続完了

〈出力側ケーブルの接続〉
まず、出力モニタ端子にレベルチェッカを接続してください。

CS/BS-IFコンバータにこのブースタから電源を供給する場合は、コンバータ電源を「入」側にしてください。



出力モニタ端子にレベルチェッカを接続してください。

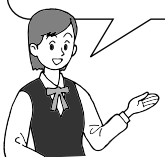
最後に出力端子に各部屋の壁面端子につながる同軸ケーブルを接続してください。
この端子には直接テレビを接続しないでください。過入力の場合、黒い画面（ブラックアウト）になり、正常には映りません。

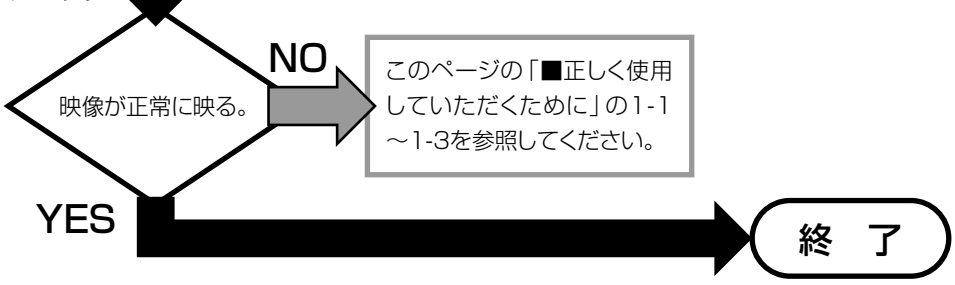
〈手順4〉ブースタの電源を入れて、テレビが正常に映ることをチェックします。

- このブースタの電源コードのプラグをAC100Vコンセントに差し込んでください。（パイロットランプが点灯します）
- 次に、レベルチェッカで出力モニタ端子をチェックして、出力が定格出力となっているか確認してください。（注3）
- 各部屋の壁面端子にTVをつないで映像が映ることをチェックしてください。

（注3）**出力モニタ端子からは、「出力端子−20dBμV」の値が出力されます。**

〈レベルチェックの一例〉
〈手順1〉で地上デジタルの13chで調整した場合、入力レベルが58dBμVのとき、出力モニタ端子では68dBμV（入力ATT0dB）を確認できればOKです。このとき出力端子からは88dBμVが出力されています。





■正しく使用していただくために

（TVの映像が出ない場合や、映像にノイズがでる場合は、もう一度5、6ページの適正入力レベルを守った調整手順をチェックしてください。）

1. TVの映像が出ない。

1-1. 電源プラグやこのブースタとTVの間のケーブルや分配器などは正しく接続されていますか?

1-2. CS/BSの場合、コンバータ電源は「入」になっていますか? →4ページ参照

1-3. 「入力切換スイッチ⑩」は正しく設定されていますか? →3ページ参照

1-4. ブラックアウト（黒い画面で映像が出ない）になる。（地上デジタル　CS／BSデジタル）
→このブースタの出力端子レベルから、各部屋の壁面端子までの系統のレベルを順を追って確認していただき、原因を取り除いてください。

2. TVの映像にノイズが出る。

ブロックノイズ（モザイク状のノイズ）が出る。（地上デジタル　CS／BSデジタル）
→一般的に入力不足が考えられます。分配器や分岐器を多く使用している場合、同軸ケーブルを数十メートル引き回すとレベル不足になります。CS／BSの場合は、パラボラアンテナの方向ずれによっても発生します。原因を取り除いていただくか、すでにこのブースタが定格で運用されている場合は、システムを検討する必要があります。

3. TVの映像が出ないチャンネルがある

入力レベルが足りないチャンネルの可能性があります。お客様の地域で受信可能かどうか確認してください。受信可能なチャンネルの場合は、混信等の影響が考えられ、このブースタ単独では解決できない可能性があります。ご購入店または弊社営業所にご相談ください。

使用上のご注意

- スイッチを切り換える場合、切換操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化（クリーニング）をしてください。
- 出力モニタは出力レベルから20dB低いレベルを出力しますが、出力端子にケーブルが接続されていないと正確なレベルを出力しません。より正確なレベル測定を行う場合、出力端子を使用してください。
- 天井や熱のこもる場所への取り付けは避け、必ず入出力端子が下向きになるように増幅器本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。

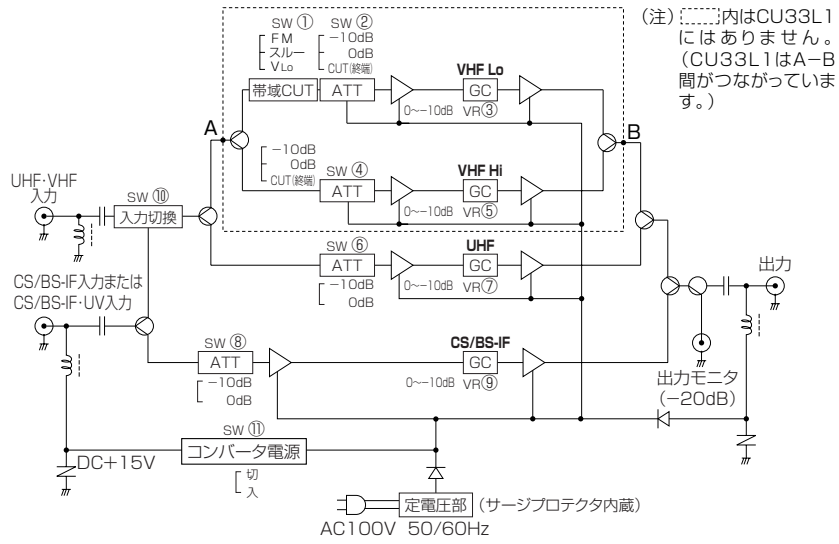
規格特性

品名	CS/BS-IF・UHF・VHFブースタ				CS/BS-IF・UHFブースタ		
品番	CM33L1				CU33L1		
使用帯域	VHF Lo	VHF Hi	UHF	CS/BS-IF	VHF	UHF	CS/BS-IF
使用周波数(MHz)	76～108	170～222	470～770	1032～2610	76～222	470～770	1032～2610
標準利得(dB)	25～30	27～33	27～33	22～28／27～33	0～−3	27～33	22～28／27～33
定格出力レベル(dBμV)	105（2波）	105（5波）	103 ☆1	100（36波）	———	103 ☆1	100（36波）
利得調整範囲(dB)	0～−10以上 連続可変	0～−10以上 連続可変	0～−10以上 連続可変	0～−10以上 連続可変	———	0～−10以上 連続可変	0～−10以上 連続可変
入力ATT(dB)	0、−10	0、−10	0、−10	0、−10	———	0、−10	0、−10
雑音指数(dB)	5以下 ☆2	5以下 ☆2	2.5以下 ☆2	6以下	———	2.5以下 ☆2	6以下
VSWR	3.0以下	3.0以下	3.0以下	2.5以下	3.0以下	3.0以下	2.5以下
利得安定度(dB)	±2.0以内			±3.0以内	———	±2.0以内	±3.0以内
相互変調(dB)	−52以下（IM3） −55以下（IM2）	−58以下（IM3） −55以下（IM2）	−68以下（IM3）	−60以下（IM3） −31以下（IM2）	———	−68以下（IM3）	−60以下（IM3） −31以下（IM2）
ハム変調(dB)	−60以下				−60以下		
出力モニタ(dB)	−20				−20		
入出力インピーダンス（Ω）	75（F形）				75（F形）		
耐雷性(kV)	入出力端子・電源端子±15（1.2/50μs）				入出力端子・電源端子±15（1.2/50μs）		
使用温度範囲(℃)	−10～+40				−10～+40		
コンバータ供給電源	DC+15V　6W				DC+15V　6W		
電源／消費電力	AC100V（50/60Hz）／4.0W（コンバータ用電源　6W送出時　11.5W） DC15V　180mA（コンバータ用電源送出時　580mA）				AC100V（50/60Hz）／3.0W（コンバータ用電源　6W送出時　10.5W） DC15V　130mA（コンバータ用電源送出時　530mA）		
外形寸法(mm)	166（H）×128（W）×35（D）				166（H）×128（W）×35（D）		
質量(kg)	0.6				0.6		

☆1印は、アナログ7波＋デジタル9波（−10dB運用時）の値です。
☆2印は、別入力時です。

■付属品　木ネジ……2本、F-5接栓リング付……3個

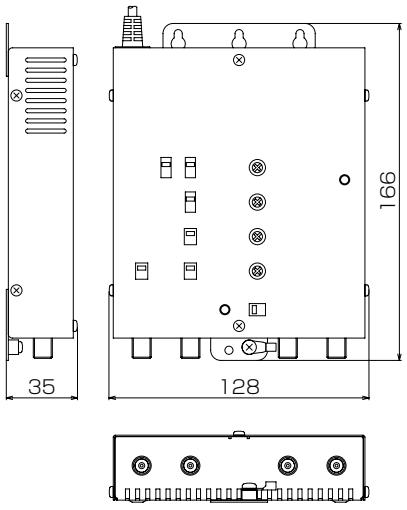
ブロックダイヤグラム



（注）：：内はCU33L1にはありません。（CU33L1はA−B間がつながっています。）

外形寸法図

（図はCM33L1で寸法は共通です。）



（単位：㎜）

※この製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

・札幌支店 TEL.(011)822-1251㈹　・新潟営業所 TEL.(025)276-2166㈹　・三重出張所 TEL.(059)226-1643㈹　・高松営業所 TEL.(087)868-1222㈹
・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830㈹　・茨城営業所 TEL.(029)826-5341㈹　・金沢支店 TEL.(076)261-9988㈹　・松山営業所 TEL.(089)925-3826㈹
・東北支店 TEL.(022)243-2141㈹　・千葉支店 TEL.(043)253-1121㈹　・富山営業所 TEL.(076)422-7878㈹　・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343㈹
・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581㈹　・木更津出張所 TEL.(0438)23-6281㈹　・大阪支店 TEL.(06)6304-5651㈹　・福岡支店 TEL.(092)541-0168㈹
・郡山出張所 TEL.(024)921-7131㈹　・柏出張所 TEL.(04)7192-1681㈹　・堺営業所 TEL.(072)278-5311㈹　・北九州営業所 TEL.(093)922-6556㈹
・東京支店 TEL.(03)3526-5402㈹　・静岡営業所 TEL.(054)281-0141㈹　・京都営業所 TEL.(075)382-6141㈹　・長崎出張所 TEL.(095)842-0780㈹
・多摩営業所 TEL.(042)572-4911㈹　・浜松営業所 TEL.(053)461-6885㈹　・神戸支店 TEL.(078)579-8550㈹　・大分営業所 TEL.(097)504-7799㈹
・横浜支店 TEL.(045)651-2557㈹　・中部支店 TEL.(052)919-6531㈹　・姫路出張所 TEL.(079)283-5920㈹　・熊本営業所 TEL.(096)325-0711㈹
・厚木出張所 TEL.(046)225-6102㈹　・松本営業所 TEL.(0263)27-7801㈹　・広島支店 TEL.(082)237-5331㈹　・南九州営業所 TEL.(099)267-8211㈹
・埼玉支店 TEL.(048)652-3311㈹　・豊橋営業所 TEL.(0532)69-2370㈹　・岡山営業所 TEL.(086)245-2948㈹　・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202㈹
・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100㈹

（2008年7月現在）

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001(代)　東京支社/〒101-0021 東京都千代田区外神田4丁目11番5号 船井ビル TEL.(03)3526-6327(代)
カスタマーセンター TEL.(078)682-0455 受付時間 9:30～12:00/13:00～17:00（土曜・日曜・祝日および夏季休暇・年末年始は除く）
ホームページアドレス http://www.dxantenna.co.jp/